

エコアクション21

2022年版 環境経営レポート



高知県土佐郡土佐町
県道高知本山線防災・安全交付金工事

発行年月日 2023年9月19日

有限会社 川田建設

目 次

1. 組織の概要
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日
3. 環境経営方針
4. 環境管理実施体制
5. 環境経営活動への取組の全体概要
6. 環境経営目標
7. 環境経営計画
8. 環境経営目標の実績
9. 環境経営計画の取組結果とその評価
10. 次年度の取組内容
 - （1）環境経営目標
 - （2）環境経営計画
11. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
12. 代表者による全体評価と見直しの結果
13. 具体的な取組状況

発行日：2023年9月19日

発行責任者：環境管理責任者 川田 優子

次回発行予定：2024年9月 頃

1.組織の概要

【事業所名】 有限会社 川田建設

【代表者氏名】 代表取締役 川田 優子

【所在地】

本社・倉庫 高知県土佐郡土佐町相川776番地

倉庫 高知県土佐郡土佐町相川字清水谷861番地5

【環境管理責任者氏名及び担当者連絡先】

環境管理責任者及び連絡先担当者 代表取締役 川田 優子

連絡先 TEL : 0887-82-1086

FAX : 0887-82-1590

E-mail : reiyou@sirius.ocn.ne.jp

【事業活動の内容】

建設業（主に土木工事を行っています。）

建設業許可	特定建設業			
許可番号	高知県知事 許可(特-3) 第2392号			
許可年月日	令和3年9月17日			
建設業の種類	土木工事業	とび・土工工事業	石工事業	鋼構造物工事業
	舗装工事業	しゅんせつ工事業	水道施設工事業	解体工事業

【事業規模】

設立年月日 昭和50年7月15日

資本金 20,000千円

		2020年度	2021年度	2022年度
売上高	(千円)	269,547	118,534	143,425
従業員数	(名)	9	8	9
事業所敷地面積	(m ²)	250	250	250
事業所延べ床面積	(m ²)	60	60	60
倉庫床面積	(m ²)	160	160	160

従業員数は、2023年8月1日現在

会計年度 7月 ~ 6月

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

【対象範囲（認証・登録範囲）】

- 有限会社 川田建設 本社・倉庫
- 倉庫

本 社 高知県土佐郡土佐町相川776番地

倉 庫 高知県土佐郡土佐町相川字清水谷861番地5

対象事業：土木工事

なお、とび・土工工事、石工事、鋼構造物工事、舗装工事、しゅんせつ工事、水道施設工事、解体工事については、事業実績がないため、対象事業から除く。

【レポートの対象期間】

2022年7月～2023年6月

【環境経営レポートの発行日】

2023年9月19日

【作成責任者】

環境管理責任者 川田 優子

3.環境経営方針

【環境経営理念】

有限会社 川田建設は、高知県嶺北地域を中心に土木工事業を行っています。この地域の豊かな自然を次世代に引き継ぐため、環境への影響を考慮し、環境負荷低減に努め、継続的な改善による環境経営を推進し、持続可能な社会の構築を目指します。全従業員で地域の美しい環境を次世代に引き継ぐため、環境保全に貢献する企業活動に取り組んでいきます。

【基本方針】

事業活動においては、環境関連法規及び条例等の遵守はもとより、以下のとおり、環境負荷の低減や環境に配慮した設計・施工に努めます。

- 1.事務所及び現場における電力使用量を削減し、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 2.車両等における燃料使用量を削減し、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3.事務所及び現場における廃棄物発生量の抑制・削減及びリサイクルに努めます。
- 4.事務所及び現場における水使用量の削減に努めます。
- 5.事務用品のグリーン購入を積極的に推進します。
- 6.環境配慮工事を推進し、環境に優しい資機材の使用を促進します。
- 7.ICT化による工事の効率的運用を目指します。
- 8.社会貢献活動に積極的に参加します。

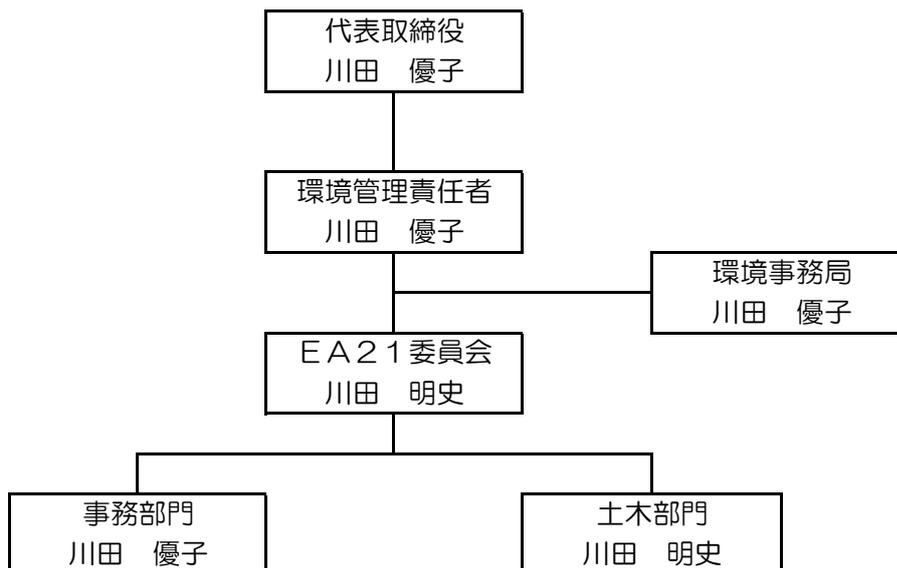
この環境経営方針は、全従業員に周知徹底し、環境保全意識の向上に努めるほか、環境経営レポート等環境情報について、広く部外公表します。

改定日 2023年7月1日

有限会社 川田建設

代表取締役 川田 優子

4.環境管理実施体制



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する総括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能・技術者を準備 環境管理責任者の任命 環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知 環境経営目標・環境経営計画を承認 代表者による全体評価と見直し実施 環境経営レポートの承認 環境管理実施体制の承認と周知 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画を確認 環境経営計画の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認 環境管理実施体制の確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、E A 2 1 委員会の事務局 環境への負荷の自己チェック表及び環境への取組の自己チェック表の実施 環境経営目標、環境経営計画原案の作成 環境経営活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知、従業員への環境教育訓練実施 自部門に係る環境経営計画の実施、達成状況報告 自部門に関連する環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告 自部門に係る緊急事態訓練の実施 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

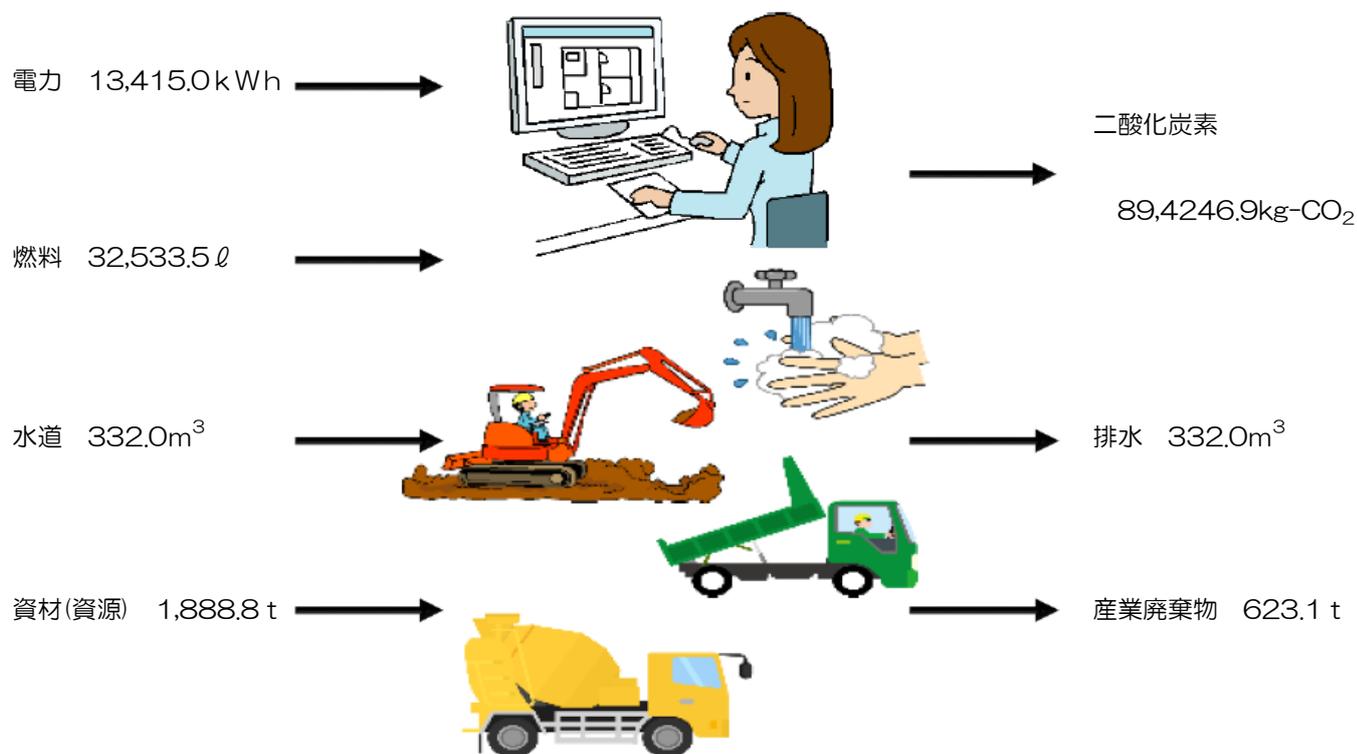
5. 環境経営活動への取組の全体概要

当社は、「エコアクション21ガイドライン2017年版」をもとに、環境負荷の自己チェックを行い環境経営目標の達成状況を評価し、改善に取り組んでいます。

〈全体概況〉

- 二酸化炭素排出量（総量）は、環境経営目標を下回るレベルに削減する事ができました。
- 産業廃棄物は、工事の関係で排出量が大幅に増加となりました。
- 用水は、様々な節水の取組が徹底し、かなり減少しました。
- 社会貢献活動についても、本年度はロードボランティア活動(12回)、自然保護団体への支援を継続実施しています。
- 令和5年2月に、こうちSDGs推進企業として登録しました。

〈有限会社 川田建設 の物質フロー〉（2022年度）



有限会社川田建設の事業活動

6.環境経営目標（2022年度）

（1）単年度目標

基準年に対して2%削減する(グリーン購入については30%増加)

項目	単位	基準年	目標(-2%)
		2018年度 H30.7-R1.6	2022年度 R4.7-R5.6
CO ₂ 排出量 (総量)	k g-CO ₂	91,416.7	89,288.3
(原単位)	k g-CO ₂ /百万円	377.8	370.2
事務所/k g-CO ₂	k g-CO ₂	16,663.3	16,330.0
現場/k g-CO ₂	k g-CO ₂	74,753.4	73,258.3
電力使用量 事務所	kWh	14,584.0	14,292.3
燃料使用量 現場	ℓ	33,121.6	32,459.1
(内訳)ガソリン	ℓ	6,290.4	6,164.5
軽油	ℓ	25,535.1	25,024.3
灯油	ℓ	1,296.1	1,270.1
一般廃棄物排出量 事務所	k g	52.0	50.9
産業廃棄物排出量 現場	t	216.5	212.1
産業廃棄物再資源化率 現場	%	100.0	100.0
用水使用量 事務所	m ³	405.0	396.9
グリーン購入 事務所	%	34.0	44.2
環境配慮工事 現場	%	100.0	100.0

1. 電力のCO₂ 発生量については、電気事業者別のCO₂ 排出係数(平成28年度実績)

(平成29年12月21日公表)の四国電力(株)の調整後排出係数0.529(kg-CO₂/kWh)を使用した。

2. 二酸化炭素排出量は、総量の他に原単位(総排出量/売上高(百万円))を設定した。(基準年(2018年度)売上高242百万円)

3. 環境配慮工事

- ・環境負荷の少ない材料(リサイクル材、県産品等)の使用
- ・低騒音、排出ガス対策型機械の使用
- ・型枠、工事看板への間伐材の使用
- ・濁水防止対策の実施
- ・法面緑化工事の実施
- ・ICT化による工事の効率化の実施

4. 化学物質については、使用の実態がないため、目標を設定していない。

（2）中長期目標（2022年度～2025年度）

(%)は基準年に対する削減率(グリーン購入については毎年5%増加)

項目	単位	2018年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		実績(基準年)	目標(-2%)	目標(-3%)	目標(-4%)	目標(-5%)
CO ₂ 排出量 (総量)	k g-CO ₂	91,416.7	89,588.3	88,674.1	87,760.0	86,845.8
(原単位)	k g-CO ₂ /百万円	377.8	370.2	366.4	362.6	358.9
事務所/k g-CO ₂	k g-CO ₂	16,663.3	16,330.0	16,163.4	15,996.7	15,830.1
現場/k g-CO ₂	k g-CO ₂	74,753.4	73,258.3	72,510.7	71,763.2	71,015.7
電力使用量 事務所	kWh	14,584.0	14,292.3	14,146.4	14,000.6	13,854.8
燃料使用量 現場	ℓ	33,121.6	32,459.1	32,127.9	31,796.7	31,465.5
(内訳)ガソリン	ℓ	6,290.4	6,164.5	6,101.6	6,038.7	5,975.8
軽油	ℓ	25,535.1	25,024.3	24,769.0	24,513.6	24,258.3
灯油	ℓ	1,296.1	1,270.1	1,257.2	1,244.2	1,231.2
一般廃棄物排出量 事務所	k g	52.0	50.9	50.4	49.9	49.4
産業廃棄物排出量 現場	t	216.5	212.1	210.0	207.8	205.6
産業廃棄物再資源化率 現場	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
用水使用量 事務所	m ³	405.0	396.9	392.8	388.8	384.7
グリーン購入 事務所	%	34.0	44.2(+30%)	45.9(+35%)	47.6(+40%)	49.3(+45%)
環境配慮工事 現場	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

7.環境経営計画

期間：2022年7月 ～ 2023年6月

項目		活動内容	区分	日程	担当者	
CO ₂ 排出量削減	電力使用量削減	昼休み・退社時の消灯	事務所	通年	事務部 土木部	
		空調機の温度管理(冷房時28℃ 暖房時20℃)	事務所 現場	冷房6～9月、 暖房12～3月		
		不使用時のパソコンの電源OFF	事務所	通年		
		照明のLED化・人感センサーの設置	事務所	随時		
	燃料使用量削減	乗り合せによる移動	現場	通年	土木部	
		排ガス対策型機械の使用	現場	通年		
		効率的な車両運転管理(移動経路等)	現場	通年		
		アイドリングストップの運転	現場	通年		
		急発進、急加速、急停車の防止	現場	通年		
		エアコン使用を極力控える	現場	冷房6～9月、 暖房12～3月		
		重機はフル運転しない	現場	通年		
	廃棄物削減	一般廃棄物	ゴミの分別、減量	事務所	通年	事務部
			印刷用インクは分別回収へ	事務所	通年	
印刷物への両面印刷の実施			事務所	通年		
使い捨て商品を避け、詰め替え可能商品購入へ			事務所	通年		
産業廃棄物		分別の徹底(リサイクル率の向上)	現場	通年	事務部 土木部	
		廃棄物の分別回収	現場	通年		
		マニフェストによる適正管理	事務所 現場	通年		
用水使用量削減 (排水量削減)	洗車用水の節約	事務所	通年	事務部 土木部		
	節水運動の実施、節水啓発シールの貼付け	事務所	通年			
	工事に雨水、自然水等利用	現場	通年			
グリーン購入	エコマーク、環境対応商品の購入	事務所	通年	事務部		
	詰め替え商品の購入	事務所	通年			
環境配慮工事	環境負荷の少ない材料(リサイクル材、県産品等)の使用	現場	通年	土木部		
	低騒音、排出ガス対策型機械の使用	現場	通年			
	型枠、工事看板への間伐材の使用	現場	通年			
	濁水防止対策の実施	現場	通年			
	法面緑化工事の実施	現場	通年			
	ICT化による工事の効率化の実施	現場	通年			
社会貢献活動	ロードボランティア活動、環境美化活動の実施	事務所 現場	通年	事務部 土木部		
	自然保護団体への支援	事務所	1回/年			

8.環境経営目標の実績

(1) 本年度実績

基準年に対して2%削減する(グリーン購入については30%増加)

項目	単位	2018年度 基準年 H30.7-R1.6	2022年度 目標(-2%) 2022.7-2023.6	2022年度 実績 2022.7-2023.6	達成率 (目標値/実績値) (%)	評価
CO ₂ 排出量 (総量)	kg-CO ₂	91,416.7	89,588.3	88,866.0	100.8	○
(原単位)	kg-CO ₂ /百万円	377.8	370.2	367.2	100.8	○
事務所/kg-CO ₂	kg-CO ₂	16,663.3	16,330.0	14,107.1	115.7	○
現場/kg-CO ₂	kg-CO ₂	74,753.4	73,258.3	74,758.9	97.9	×
電力使用量	kWh	14,584.0	14,292.3	13,415.0	106.5	○
燃料使用量	ℓ	33,121.6	32,459.1	32,292.6	100.5	○
(内訳)ガソリン	ℓ	6,290.4	6,164.5	5,537.9	111.3	○
軽油	ℓ	25,535.1	25,024.3	25,581.2	97.8	×
灯油	ℓ	1,296.1	1,270.1	1,173.5	108.2	○
一般廃棄物排出量	kg	52.0	50.9	49.2	103.4	○
産業廃棄物排出量	t	216.5	212.1	623.1	34.0	×
産業廃棄物再資源化率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	○
用水使用量	m ³	405.0	396.9	332.0	119.5	○
グリーン購入	%	34.0	44.2	56.3	127.3	○
環境配慮工事	%	100.0	100.0	100.0	100.0	○

- 電力のCO₂発生量については、電気事業者別のCO₂排出係数(平成28年度実績)
(平成29年12月21日公表)の四国電力(株)の調整後排出係数0.529(kg-CO₂/kWh)を使用した。
- 二酸化炭素排出量は、総量の他に原単位(総排出量/売上高(百万円))を設定した。(基準年(2018年度)売上高242百万円)
- 環境配慮工事
 - 環境負荷の少ない材料(リサイクル材、県産品等)の使用
 - 低騒音、排出ガス対策型機械の使用
 - 型枠、工事看板への間伐材の使用
 - 濁水防止対策の実施
 - 法面緑化工事の実施
 - ICT化による工事の効率化の実施
- 化学物質については、使用の実態がないため、目標を設定していない。
- 達成率 = 目標値÷実績値×100 100%以上が達成。 グリーン購入においては、実績値÷目標値×100とする。
- 評価 ○:達成 ×:未達成

<環境目標未達成理由>

- 燃料使用量(軽油)・・・ 燃料使用量全体では目標を達成できたが、軽油の使用量が目標を達成できなかった。原因としては、2022年3月からの繰越工事に盛土工があり、重機・ダンプトラックの稼働が増加したと考える。
- 産業廃棄物排出量・・・ 2022年受注工事において、設計上産業廃棄物の処分が多かった為、コンクリートがら・アスファルトがら・木くずの排出量が増加した。

(2) 3年間の実績

項目	単位	2022年度 目標値	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績
CO ₂ 排出量 (総量)	kg-CO ₂	89,588.3	84,376.1	65,892.2	88,866.0
(原単位)	kg-CO ₂ /百万円	370.2	313.7	558.4	367.2
事務所/kg-CO ₂	kg-CO ₂	16,330.0	15,542.2	17,767.0	14,107.1
現場/kg-CO ₂	kg-CO ₂	73,258.3	68,833.9	48,125.2	74,758.9
電力使用量	kWh	14,292.3	14,223.0	14,115.0	13,415.0
燃料使用量	ℓ	32,459.1	30,398.8	23,236.0	32,292.6
(内訳)ガソリン	ℓ	6,164.5	5,637.0	5,418.6	5,537.9
軽油	ℓ	25,024.3	23,527.0	16,541.7	25,581.2
灯油	ℓ	1,270.1	1,234.8	1,275.8	1,173.5
一般廃棄物排出量	kg	50.9	55.0	51.3	49.2
産業廃棄物排出量	t	212.1	114.1	327.4	623.1
産業廃棄物再資源化率	%	100.0	100.0	100.0	100.0
用水使用量	m ³	396.9	410.0	412.0	332.0
グリーン購入	%	44.2	47.2	42.5	42.9
環境配慮工事	%	100.0	100.0	100.0	100.0

9. 環境経営計画の取組結果とその評価

期間：2022年7月 ～ 2023年6月

項目	活動内容	取組結果	評価	見直し	
CO ₂ 排出量	電力使用量削減	昼休み・退社時の消灯	積極的に節電に取組むことができた。	◎	さらに習慣づくよう継続する。
		空調機の温度管理(冷房時28℃ 暖房時20℃)			
		不使用時のパソコンの電源OFF			
		照明のLED化・人感センサーの設置			
	燃料使用量削減	乗り合せによる移動	急発進・急加速・急停車防止を心掛けた。エアコン使用を控え自然風での運転を実施した。	○	さらに習慣づくよう継続する。
		排ガス対策型機械の使用			
		効率的な車両運転管理(移動経路等)			
		アイドリングストップの運転			
		急発進、急加速、急停車の防止			
		エアコン使用を極力控える			
重機はフル運転しない					
廃棄物削減	一般廃棄物	ゴミの分別、減量	ゴミの分別、減量の実施や、印刷用インクの回収を徹底した。	◎	さらに習慣づくよう継続する。
		印刷用インクは分別回収へ			
		印刷物への両面印刷の実施			
		使い捨て商品を避け、詰め替え可能商品購入へ			
	産業廃棄物	分別の徹底(リサイクル率の向上)	廃棄物の分別回収やマニフェストの適正管理を徹底した。	○	継続する。
		産廃物の分別回収			
	マニフェストによる適正管理				
水使用量削減	洗車用水の節約	自然水を利用するなど節水に取り組む事が出来た。	◎	継続する。	
	節水運動の実施、節水啓発シールの貼付け				
	工事用に雨水、自然水等利用				
グリーン購入	エコマーク、環境対応商品の購入	エコマーク・環境対応商品の購入を積極的に行った。	◎	継続する。	
	詰替え商品の購入				
環境に配慮した工法等の提案	環境負荷の少ない材料(リサイクル材、県産品等)の使用	低騒音、排ガス対策型重機の使用やDJI(ICT3次元起工測量)の導入、粉じん対策などを心掛けた。	◎	継続する。	
	低騒音、排ガス対策型機械の使用				
	型枠、工事看板への間伐材の使用				
	濁水防止対策の実施				
	法面緑化工事の実施				
	ICT化による工事の効率化の実施				
環境美化及びその他の活動	ロードボランティア活動、環境美化活動の実施	ロードボランティアや町内一斉清掃等へ参加した。	◎	継続する。	
	自然保護団体への支援				

評価 良好◎ 十分○ 不十分×

10. 次年度の取組内容

(1) 環境経営目標 (2023年度)

(1) 単年度目標

基準年に対して3%削減する(グリーン購入については35%増加)

項目	単位	基準年	目標(-3%)
		2018年度 H30.7-R1.6	2023年度 R5.7-R6.6
CO ₂ 排出量 (総量)	kg-CO ₂	91,416.7	88,674.1
(原単位)	kg-CO ₂ /百万円	377.8	366.4
事務所/kg-CO ₂	kg-CO ₂	16,663.3	16,163.4
現場/kg-CO ₂	kg-CO ₂	74,753.4	72,510.7
電力使用量	kWh	14,584.0	14,146.4
燃料使用量	ℓ	33,121.6	32,127.9
(内訳) ガソリン	ℓ	6,290.4	6,101.6
軽油	ℓ	25,535.1	24,769.0
灯油	ℓ	1,296.1	1,257.2
一般廃棄物排出量	kg	52.0	50.4
産業廃棄物排出量	t	216.5	210.0
産業廃棄物再資源化率	%	100.0	100.0
用水使用量	m ³	405.0	392.8
グリーン購入	%	34.0	45.9
環境配慮工事	%	100.0	100.0

- 電力のCO₂発生量については、電気事業者別のCO₂排出係数(平成28年度実績)
(平成29年12月21日公表)の四国電力(株)の調整後排出係数0.529(kg-CO₂/kWh)を使用した。
- 二酸化炭素排出量は、総量の他に原単位(総排出量/売上高(百万円))を設定した。(基準年(2018年度)売上高242百万円)
- 環境配慮工事
 - ・環境負荷の少ない材料(リサイクル材、県産品等)の使用
 - ・低騒音、排出ガス対策型機械の使用
 - ・型枠、工事看板への間伐材の使用
 - ・濁水防止対策の実施
 - ・法面緑化工事の実施
 - ・ICT化による工事の効率化の実施
- 化学物質については、使用の実態がないため、目標を設定していない。

(2) 中長期目標 (2023年度~2026年度)

(%)は基準年に対する削減率(グリーン購入については毎年5%増加)

項目	単位	2018年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
		実績(基準年)	目標(-3%)	目標(-4%)	目標(-5%)	目標(-6%)
CO ₂ 排出量 (総量)	kg-CO ₂	91,416.7	88,674.1	87,760.0	86,845.8	85,931.6
(原単位)	kg-CO ₂ /百万円	377.8	366.4	362.6	358.9	355.1
事務所/kg-CO ₂	kg-CO ₂	16,663.3	16,163.4	15,996.7	15,830.1	15,663.5
現場/kg-CO ₂	kg-CO ₂	74,753.4	72,510.7	71,763.2	71,015.7	70,268.1
電力使用量	kWh	14,584.0	14,146.4	14,000.6	13,854.8	13,708.9
燃料使用量	ℓ	33,121.6	32,127.9	31,796.7	31,465.5	31,134.3
(内訳) ガソリン	ℓ	6,290.4	6,101.6	6,038.7	5,975.8	5,912.9
軽油	ℓ	25,535.1	24,769.0	24,513.6	24,258.3	24,002.9
灯油	ℓ	1,296.1	1,257.2	1,244.2	1,231.2	1,218.3
一般廃棄物排出量	kg	52.0	50.4	49.9	49.4	48.8
産業廃棄物排出量	t	216.5	210.0	207.8	205.6	203.5
産業廃棄物再資源化率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
用水使用量	m ³	405.0	392.8	388.8	384.7	380.7
グリーン購入	%	34.0	45.9(+35%)	47.6(+40%)	49.3(+45%)	51.0(+50%)
環境配慮工事	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(2) 環境経営計画(2023年度)

期間：2023年7月 ～ 2024年6月

項目		活動内容	区分	日程	担当者
CO ₂ 排出量削減	電力使用量削減	昼休み・退社時の消灯	事務所	通年	事務部 土木部
		空調機の温度管理(冷房時28℃ 暖房時20℃)	事務所 現場	冷房6～9月、 暖房12～3月	
		不使用時のパソコンの電源OFF	事務所	通年	
		照明のLED化・人感センサーの設置	事務所	随時	
	燃料使用量削減	乗り合せによる移動	現場	通年	土木部
		排ガス対策型機械の使用	現場	通年	
		効率的な車両運転管理(移動経路等)	現場	通年	
		アイドリングストップの運転	現場	通年	
		急発進、急加速、急停車の防止	現場	通年	
		エアコン使用を極力控える	現場	冷房6～9月、 暖房12～3月	
	重機はフル運転しない	現場	通年		
	廃棄物削減	一般廃棄物	ゴミの分別、減量	事務所	通年
印刷用インクは分別回収へ			事務所	通年	
印刷物への両面印刷の実施			事務所	通年	
使い捨て商品を避け、詰め替え可能商品購入へ			事務所	通年	
産業廃棄物		分別の徹底(リサイクル率の向上)	現場	通年	事務部 土木部
		廃棄物の分別回収	現場	通年	
マニフェストによる適正管理	事務所 現場	通年			
用水使用量削減 (排水量削減)	洗車水の節約	事務所	通年	事務部 土木部	
	節水運動の実施、節水啓発シールの貼付け	事務所	通年		
	工事に雨水、自然水等利用	現場	通年		
グリーン購入	エコマーク、環境対応商品の購入	事務所	通年	事務部	
	詰め替え商品の購入	事務所	通年		
環境配慮工事	環境負荷の少ない材料(リサイクル材、県産品等)の使用	現場	通年	土木部	
	低騒音、排ガス対策型機械の使用	現場	通年		
	型枠、工事看板への間伐材の使用	現場	通年		
	濁水防止対策の実施	現場	通年		
	法面緑化工事の実施	現場	通年		
	ICT化による工事の効率化の実施	現場	通年		
社会貢献活動	ロードボランティア活動、環境美化活動の実施	事務所 現場	通年	事務部 土木部	
	自然保護団体への支援	事務所	1回/年		

1.1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法規名	適用条項	具体的内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守 状況	確認日
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第3条	(事業者の責務) ・事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理	必要時	事務部 土木部	○	2023/7/1
	第11条	・産業廃棄物の事業者の自己処理	必要時	事務部 土木部	○	2023/7/1
	第12条	・産業廃棄物の保管基準の遵守 ・産業廃棄物の委託契約、委託基準の遵守			○	2023/7/1
	第12条の3	・産業廃棄物管理票(マニフェスト)の交付	廃棄物排出時	土木部	○	2023/7/1
	第12条の3 7項	・マニフェスト交付状況報告書の作成及び都道府県知事(高知県知事)への提出	年に1回 毎年6月末	事務部	○	2023/7/1
	第16条	・不法投棄の禁止	必要時	事務部 土木部	○	2023/7/1
	第16条の2	・不法焼却の禁止(一定の場合を除く) (除外の場合: 廃棄物処理基準に従う焼却、他法令に基づく焼却、公益上・社会慣習上やむを得ない・生活環境への影響の軽微な焼却)			○	2023/7/1
	第21条の3	・建設廃棄物は元請業者が事業者	廃棄物排出時	事務部 土木部	○	2023/7/1
資源の有効な利用の促進に関する法律 (資源有効利用促進法)	第4条	・土砂、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木材等の減量化及びリサイクルに努力	必要時	土木部	○	2023/7/1
	第15条	・建設業に属する事業を行う者の再生資源の利用に関する判断の基準となるべき事項を定める 再生利用計画書(実施書)の作成・保管(施工後5年間)、計画の工事現場での掲示(再生資源利用省令第8条)	必要時	事務部 土木部	○	2023/7/1
	第34条	・建設業に属する事業を行う者の指定副産物に係る再生資源の利用の促進に関する判断の基準となるべき事項を定める 再生資源利用促進計画(実施書)の作成・保管(施工後5年間)、計画の工事現場での掲示(指定副産物利用促進省令第7条)	必要時	事務部 土木部	○	2023/7/1
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 (建設リサイクル法)	第5条	・建設資材廃棄物の発生抑制、分別解体等及び建設資材廃棄物の再資源化等費用の低減努力 ・建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用する努力	必要時	土木部	○	2023/7/1
	第9条 第16条	・分解解体等・再資源化の実施義務(受注者) ※第10条: 発注者の知事への工事届出				
	第12条	・工事届出に係る事項の説明				
	第18条	・再資源化等完了の報告				
騒音規制法	第14条 第15条	・特定建設作業の実施の届出、規制基準の遵守 (建設作業開始7日前までに市町村長に届出)	必要時	土木部	○	2023/7/1
振動規制法	第14条 第15条	・特定建設作業の実施の届出、規制基準の遵守 (建設作業開始7日前までに市町村長に届出)	必要時	土木部	○	2023/7/1
下水道法 土佐町下水道条例	第10条	・下水道に下水を流入させる為の排水管、排水渠等の設置	必要時	土木部	○	2023/7/1
	第13条	・し尿の水洗便所による排除			○	
	条例第14条	・使用開始等の町長への届出				
高知県環境基本条例	第6条	(事業者の責務) ・公害防止、自然環境保全、廃棄物の適正処理	必要時	事務部 土木部	○	2023/7/1
土佐町環境基本条例	第4条	(事業者の責務) ・環境保全	必要時	事務部 土木部	○	2023/7/1
土佐町環境保全条例	第6条	・事業活動に伴い公害が発生しないよう適切な防止施設・処理施設の整備に努力	必要時	事務部 土木部	○	2023/7/1
	第9条	・土木・建設工事等の工事に関し、土砂等の飛散・脱落・流出・堆積のないような必要な措置の実施			○	

法規名	適用条項	具体的内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守 状況	確認日
オフロード法	第4条2項	・使用者は特定特殊自動車排出ガスの排出抑制のための必要な措置を講ずるよう努力、国・県が実施する施策に協力	必要時	土木部	○	2023/7/1
	第17条	・基準適合表示以外の特定特殊自動車の使用禁止 (基準適合表示を貼付した車両の使用)			○	2023/7/1
	第18条	・基準適合の状態での特定特殊自動車の使用 (適合しない状態の場合、知事による基準適合のための整備命令)			○	2023/7/1
	第28条 施行令第2条	・建設業に係る特定特殊自動車排出ガスの排出の抑制を図るための指針 ・抑制指針の遵守(適正燃料の使用・点検整備の実施等)			○	2023/7/1
排ガス対策型建設機械指定制度		・オフロード法の規制対象外である建設機械に対する排出ガス対策推進のために国土交通省が定めるもの ・排出ガス基準を定め、これを適合する建設機械を排ガス対策型建設機械として型式指定する	必要時	土木部		2023/7/1
フロン排出抑制法	第16条	・管理者判断基準の遵守 第一種特定製品について、フロン漏洩の簡易定期点検、点検整備の履歴の記録・保管	3ヶ月に1回以上	事務部 土木部	○	2023/7/1
	第41条 第43条 第45条	・廃棄等に際しての第1種フロン類回収業者へのフロン類の引き渡し ※回収依頼書、委託確認書の交付、引取証明書の受け取り	必要時			
	第45条の2	・第一種特定製品の引取等業者への引き渡し時の引取証明書などの写し交付	必要時			
	第86条	・フロン類の放出の禁止	必要時			
省エネルギー法	第4条	・エネルギー使用者のエネルギーの使用合理化への努力、電気需要最適化に資する措置実施に努力	必要時	事務部 土木部	○	2023/7/1
	第5条	・判断基準(エネルギー使用の合理化に係るもの、非化石エネルギーへの転換に係るもの)に基づく措置の実施 ・電気需要最適化指針に基づく取組の実施	必要時			
地球温暖化対策推進法	第23条	・事業活動に伴う排出削減等の努力 ・排出削減等指針 ※23条について事業者が講ずべき措置の適切・有効な実施のためのもの	必要時	事務部 土木部	○	2023/7/1

(2) 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、環境関連法規等への違反はありません。なお、関係当局による違反等の指摘や訴訟は、過去3年間ありません。

12. 代表者による全体評価と見直しの結果

■定期見直し

□臨時見直し

見直しに必要な情報				代表者による見直し	
環境管理責任者の報告及び改善提案				変更の必要性の有無・指示事項	
【取組状況の評価結果】 ①環境関連法規等の遵守状況 環境関連法規等への違反、訴訟はありません。 ②問題点の是正処置及び予防処置の状況 応急処置がありました。 ③前回までの代表者の指示事項への対応 環境負荷の低減・削減に努めました。				【環境経営方針】 変更の必要性 □有 ■無 【コメント】 環境経営方針に沿い、全従業員で地域の美しい環境を次世代に引き継ぐため、引続き環境保全に取り組む。	
【目標・計画の達成状況】				【環境経営目標・環境経営計画】 変更の必要性 □有 ■無 【コメント】 環境経営計画についても毎月計画通りに実施できているが、環境経営目標は未達成の部分もある。次年度はさらに環境負荷の低減を目指し目標達成に向かって社員一同で取り組んでいきたい。	
目標項目	目標値 達成状況	計画 実施状況	コメント (目標値、計画に対するコメント)		
二酸化炭素排出量削減	○	○	今後も削減に努めます。		
電力使用量削減	○	○	今後も削減に努めます。		
燃料使用量削減	×	○	受注工事の工種によって使用量は変わるが、今後も削減に努めます。		
一般廃棄物排出量削減	○	○	今後も削減に努めます。	【その他】 変更の必要性 □有 ■無	
廃棄物排出量削減	×	○	受注工事により排出量が変わるが、今後も削減に努めます。	【コメント】 環境経営システムは、問題なく機能している。	
水使用量削減	○	○	今後も削減に努めます。		
グリーン購入	○	○	今後も意識して、継続していきます。		
環境配慮工事	○	○	今後も積極的に取り組みます。	【実施体制】 変更の必要性 □有 ■無	
社会貢献活動		○	今後も積極的に取り組みます。	【コメント】 引き続き現在の環境管理実施体制で取り組む。	
【周囲の変化の状況】 ①外部コミュニケーション記録より 苦情はありませんでした。 ②環境関連法規等の動向他 改正省エネ法の施行（令和5年4月から） 資源有効利用促進法の改正政省令の施行（令和5年1月から） <改善提案>				【総括】 ICT化による工事施工効率化の実施に取組み、引続き環境負荷の低減・削減に努め持続可能な社会の構築を社員一同で取り組んでいく。	
代表者が自ら得た情報				作成日：2023年7月3日	
特になし。				代表取締役 川田 優子	

13. 具体的な取組状況

1. 環境配慮工事

工事名 県道高知本山線 防災・安全交付金(1号橋A2橋台)工事

工期：2021年8月～2023年8月

低騒音、排ガス対策型重機



使用機械 ラフタークレーン25t

低騒音型、排ガス基準適合車

間伐材を使用した看板



高知県産杉間伐材の木製工事用看板を積極的に取り入れています。

ICT



3次元起工測量

2. 社会貢献活動

ロードボランティア活動



県道高知本山線(県道16号線) (2022年度実績12回)

自然保護団体への支援



支援団体	支援内容	支援年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2016年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2017年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2018年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2019年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2020年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2021年
環境の杜こうち	交通エコポイント活用社会還元事業	2022年

CO₂削減量 10 t

※2023年も支援を継続予定です。

こうちSDGs推進企業への登録



令和5年2月登録